

立命館大学大学院言語教育情報研究科主催公開講座 「英語学と英語教育の接点」

主催：立命館大学大学院言語教育情報研究科

この情報は、転送自由です。

第3回は、**2025年11月30日（日）**に開催します。

実施形態：対面

会場：立命館大学衣笠キャンパス（京都市北区等持院北町 56-1）
平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

立命館大学衣笠キャンパスのキャンパスマップ：

<https://www.ritsumei.ac.jp/campusmap/kinugasa/>

立命館大学衣笠キャンパスへのアクセス方法：

<https://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

参加費：無料

申し込み：不要

問い合わせ先：takizawa[アット]li.ritsumei.ac.jp

13:00-14:20：滝沢直宏「コーパスの有効活用に必要なこと：コーパスの中を「見る」必要性と正規表現の有用性」

概要： 巨大な言語資料であるコーパスを利用する際には、専用の分析ソフトウェアや Web アプリケーションを用いるのが一般的である。しかし、このような利用形態では、コーパスをブラックボックスとして扱うことになり、研究上の問題を生じるおそれがある。こうした問題を回避するためには、コーパスを構成する生のテキストを実際に「見る」ことが不可欠である。それによって、コーパスの構造を理解することが可能となる。本講座では、広く利用されている英語コーパスを実際に「見る」ことを通して、情報抽出の際に留意すべき点や、得られたデータの解釈に関わる諸問題を検討する。また、コーパス処理に有益な正規表現と、処理過程の透明化を目的とした初歩的な Perl スクリプトの作成についても議論する。

14:30-15:50：山崎のぞみ「英語の話し言葉コーパスを使った話し言葉文法研究」

概要： 話し言葉を録音して書き起こす作業には膨大な時間がかかる。しかし、20 世紀後半に英語の話し言葉コーパスの編纂が始まったことで、話し言葉へのアクセスは一気

に進んだ。本講座では、まず英語の話し言葉コーパス編纂の発展を概観し、これまでに様々な目的で作られてきた話し言葉コーパスの特徴を見ていく。さらに、2012～2016年に収集された、イギリス英語母語話者 668 人による約 1,150 万語の会話を収めた The Spoken British National Corpus 2014 (Spoken BNC2014)を詳しく取り上げる。このコーパスに含まれる会話はすべて日常的なインフォーマルなやり取りであり、21 世紀の自然な会話を観察・分析することができる。Spoken BNC2014 の編纂方法や表記方法を確認しながら、英語の「話しことば文法」解明にどのように利用できるかを考える。

15:50-16:20：全体討論